



日本とドイツのエネルギー転換
政策・認識・実践
国際ミニシンポジウム

2020年2月17日(月) 東京(お台場)

13:00 – 17:00

日本科学未来館、コンファレンスルーム土星

日程概要(暫定)

12:30 ~ 受付開始

13:00 – 13:15 開会挨拶と紹介 (DWIH, HUOK, 進行役)

13:15 – 14:30 セッション I: エネルギー政策と社会経済的側面

14:30 – 15:00 休憩 (登壇者・聴講者にドリンクを用意)

15:00 – 16:15 セッション II: 地域エネルギーの概念と統合技術

16:15 – 16:45 聴講者との全体ディスカッション・まとめ

セッション詳細(暫定)

セッション I: エネルギー政策と社会経済的側面

チェア: ダニエル クレーマース主任研究員 (ドイツ日本研究所) 確認中

マキシミリアン ユングマン HCE 所長 (ハイデルベルク大学)

エネルギー転換への国内及び国際的な原動力と障壁 – ドイツでエネルギー政策決定に影響を与えるものは何か?

山口 容平 准教授 (大阪大学)

エネルギー転換は従来の技術動向をどのように踏み越えるか? 日本の建築部門における技術的 CO2 削減ポテンシャル研究からの洞察

ティモ ゲシュル 教授 (ハイデルベルク大学)

エネルギー転換における世帯の役割: 世帯内行動のブラックボックスを開けられるか?

セッション II: 地域エネルギーの概念と統合技術

チェア： ダニエル クレーマース主任研究員（ドイツ日本研究所）

石原 慶一 教授（京都大学）

九州地域を例に、太陽光発電促進のための電気自動車（EV）の役割
総発電コスト削減に向けて

クラウス プフファイルスティッカー 教授（ハイデルベルク大学）

エネルギー節制、エネルギー効率、再生可能エネルギーに基づいた地域エネルギーの概念
（3E）：事例を示しながら

土屋 範芳 教授（東北大学）

エネルギー価値学と日本の地熱エネルギー